

2023年度 学芸フロンティアC 参加報告書

A類国語コース日本語教育サブコース2年 鈴木 陽心

私が学芸フロンティアCに参加した理由は、自身の高校時代にできなかったことのリベンジをしたいという思いがあったからです。私は高校時代に、アメリカのシアトルで国際交流をするプログラムに参加する予定でした。準備をすすめ、さあいよいよだというときにコロナ禍が始まりました。もちろんプログラムは中止、不完全燃焼のまま活動は終了しました。そのときにできなかった海外の若者たちとの交流ができるかもしれないと考え、学芸フロンティアCへの参加を決めました。

学芸フロンティアCにおける活動を通して、私は多くの学びを得ました。その中で、もっとも大きいと感じているのは、「英語」そのものに対する印象の変化です。私は決して英語ができる学生ではありません。英検も3級以上を持っていません。ですから、学芸フロンティアCに参加する前は不安で仕方ありませんでした。「自分の英語は通じるのだろうか」「笑われはしないだろうか」そんな考えで頭がいっぱいでした。しかし実際にミシガン州立大学の学生さんたちと交流してみると、そんな不安は不要でした。もちろん言いたいことがうまく伝えられないこともありました。そんなときミシガン州立大学の学生さんたちは、「つまりこういうこと？」と聞き返してくれます。彼らと話していた私の英語は、文法・単語・発音どれをとってもめちゃくちゃだったと思います。しかし、通じました。会話が成り立っていました。英語はあくまで言語であり、コミュニケーションツールに過ぎず重要なのはコミュニケーションをとること自体なのだ気づきました。これが、私の学芸フロンティアCで学んだことの中で最も重要だと感じることです。

私は将来、日本語教師になりたいと考えています。日本語教育というフィールドでは、私が学芸フロンティアCを通じた学んだことを最大限生かすことが出来ると思います。コミュニケーションツールとしての日本語を伝え、学習者がより多くの人と日本語を利用してコミュニケーションをとれるようになってほしい。そのためには、私が学んだ言語に対するポジティブなイメージが必要だと思っています。